昆虫寄生性線虫 Steinernema carpocapsae を利用したレタスのネキリムシ類の防除

藤本 伸・松本英治

香川県農業試験場研究報告 第54号(2001年3月) 25-31

レタスのネキリムシ類に対して昆虫寄生性線虫 Steinernema carpocapsae を利用した防除法について検討した。

- 1. カブラヤガ幼虫(約2頭/m²)に対して Steinernema carpocapsae を畝上に 10^6 頭/1.5?/m² 潅注施用してフィルムマルチをし、3日後に植付け穴をあけてレタスを定植することにより、被害を完全に防止できた。
- 2. カブラヤガ幼虫(約2頭/m²)に対して Steinernema carpocapsae を畝上に 2.5×10^5 頭/0.5?/m² 潅注施用してフィルムマルチをし、3日後に植付け穴をあけてレタスを定植した場合、被害の防止効果は不安定であった。
- 3. 自然発生したネキリムシ類(甚発生)に対して Steinernema carpocapsae を畝上に 10^5 頭/1.5?/ m^2 潅注 施用してフィルムマルチをし、3 日後に柚付け穴をあけてレタスを定植することにより、被害株率を無処理の約 2 割に抑制できた。

キーワード:昆虫寄生性線虫, Steinernema carpocapsae, 生物的防除, ネキリムシ類, レタス